

第一回

国語問題

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図^{あいず}があるまで、開かないこと。
- 二、問題は□〃〓で、二十ページにわたって印刷してあります。
ページが抜ける^ぬなどとしていた場合には、試験監督^{かんとく}の先生に申し出なさい。
- 三、解答は、すべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子^{さっし}の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

一

次の①～⑩の——線部について、漢字はその読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 空いっぱいに暗雲が立ちこめる。
- ② 数歩退いて、あたりのようすをうかがう。
- ③ 類いまれなる才能を発揮する。
- ④ 見知らぬ土地で迷子になる。
- ⑤ 期日までにお金を工面する。
- ⑥ チラシを見て、当日のエンモクを確認する。
- ⑦ チームイチガンとなって戦う。
- ⑧ 土地をバイバイする。
- ⑨ プレゼントをきれいにツツむ。
- ⑩ ダイトウリヨウ選挙に立候補する。

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくてもかまいません。

二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P2～P12）は省略します。

三

次のⅠとⅡの文章を読み、後の問いに答えなさい。

次の文章は、朝日新聞社に勤めている筆者が、学生時代を振り返って書いたものである。大学生のころ、沖縄に住んでいた筆者は、友人や上級生とともに、オオヒキガエルの駆除（有害な生きものを殺すこと）に関わっていた。

Ⅰ 調査は夜行性のオオヒキガエルにあわせて、夕暮れから始まりました。調査そのものはなかなか地味でした。ヘッドライトを付けたらハンドライトを手にしたたりした何人もの参加者が、過去に目撃されたことのある場所やその周辺を何時間も歩いて、オオヒキガエルがいなかひたすら探します。

私は捕獲用のビニール袋を握りしめ、下を向きながら①見つけちゃったろうしやうと、不安や後ろめたさが入り交じったような気持ちで少しだけこみ上げてきました。見つけたオオヒキガエルは捕まえて殺処分することになります。特定外来生物なので勝手に飼うこともできません。

大学の授業では、特定外来生物が他の生きものを食べたり、すみかを奪ったりすることで、在来の生きものを減らしたり、生きもの同士のつながりを壊したりすることを学びました。生物多様性にとって大きな脅威でもあり、人間の活動にも悪影響を与えてしまうことも知っていました。駆除する必要があることも、しなければ大好きな沖縄の森がどうなってしまうのかも頭の中では十分に理解しているつもりでした。それでも、いざ駆除の現場に立つと、命を奪う行為にやはり抵抗を感じてしまいました。

A 相手は雨の日には必ず家に連れて帰っていた、大好きなカエルの仲間です。それまで何度も何度も見てきた図鑑のカエルたちは、私にとっては、在来種だからとか外来種だからといった区別はありませんでした。きれいな写真や絵が並ぶページをめくって「どのカエルも好き」、それで何の問題もなかったのに……。

先に行く友人や大学院の先輩たちは、2 歩を進めていきます。駆除という行為に何の迷いもなさそうに見えます。みんな私よりもずっと生きものに詳しい人たちです。口をそろえて「駆除しないといけない」と言います。もちろん、「駆除をやめよう」なんて言うつもりはありませんが、ここで「モヤモヤする」なんて言ったら、生きものに関わる人間として失格なんじゃないか、そんなことを考えると、胸のうちにある思いを明かすことができませんでした。

調査の途中でもう1つ印象に残った出来事がありました。誰かが茂みの水たまりに、1匹のゲンゴロウがすいすいと泳いでいるのを見つけたのです。なんとという種のゲンゴロウだったかは忘れてしまったのですが、もともと沖縄にすんでいる種類でした。生きものが好きな参加者が多いので、数人で水たまりを囲んで、楽しそうに観察しています。

沖縄では侵略的外来種だとしても、私にはオオヒキガエルもとても魅力的な生きものです。ですが、きっと今ここで見つかってしまえばゲンゴロウのように喜ばれたり、楽しんで観察したりすることはできないはずです。オオヒキガエルという生きものへの好奇心や、出会えた感動よりも、駆除対象を発見したということ、とるべき行動を優先することになるからです。

この日の調査では結局、最後までオオヒキガエルは見つかりませんでした。発見数ゼロを積み重ねることができた日でした。オオヒキガエルが再び繁殖(注5)しておらず、対策がうまくいっていることに、ひとまず調査に参加した人たちと一緒に安心しました。

それと同時に私は1人の生きものの好きとして、大好きなカエルを殺さずにすんだということにもホッとした気持ちでした。その後も外来種の駆除には何回か携(たずさ)わってきました。それでも、初めての駆除調査に参加した時に感じたこの気持ちや戸惑(まど)いは、今でも心に強く残っています。

〈中略〉

もし、オオヒキガエルの調査に参加した、あの日の自分に何か声をかけることができるなら伝えたいことがあります。それ

は「カエルが好きなら、事実^④に目を背けないでそこにいる誰よりも目の前の調査に向き合いなさい」ということです。「目の前のオオヒキガエルがかわいそう」という気持ちや愛情、「命は大事」という道徳心だけを根拠^{きよ}に、できるだけ心の痛みを避けられる選択^{たぐ}を続けていけば、その時は楽かもしれません。

B それが広い視野、長い目で見た時にも、適切な判断となるとは限りません。

もちろん、調査に参加していた時、オオヒキガエルを探すことに手を抜いたつもりはありません。けれど、仮に後ろ向きな気持ち^⑤がうつかりカエルの発見を見逃^{のが}してしまうことにつながってしまえば、どうなるでしょうか？ オオヒキガエルの根絶^⑥をめざして、それまで数多くの調査員が「1匹も残さない」という強い気持ちで真剣^{けん}に調査を重ねてきました。後ろめたさという理由でいい加減な探し方をしてしまえば、そうした人々^{ひとびと}の覚悟や労力を無駄^だにしまっていったでしょう。

なにより、無駄になるのはそれだけではありません。調査の裏にはこれまで根絶のために命を奪われてきた、たくさんのオオヒキガエルがいます。^⑦第2章のナガエツルノゲイトウの話でも触^ふれましたが、侵略的外来種の駆除はスピードが大切です。すごい早さで増えてしまうので、それ以上のスピードで駆除を進めなければいけないということです。

駆除のために100匹のオオヒキガエルの命を奪っても、そのスピードが遅^{おそ}くて増えるのに追いつかなかったり、数匹でも見逃^{のが}してしまうことでまた増殖してしまったりすれば、また新たな100匹のオオヒキガエルの命を奪うことにつながってしまうかもしれません。目の前の調査に真剣に向き合うということは、これまで駆除のために奪ってきた命、駆除によって守ってきた命、そしてこれから生まれてくる命、この全てを無駄にしないことでもあると今の私は考えています。

目の前の生きものの命を優先しないというのは、命を大切にしないということと同じ意味ではありません。私たちは目の前にいるカエルのような、自分自身が今見ているものにどうしてもとらわれてしまいます。^⑧ですが、その1匹のカエルの向こう側にも、たくさんの命があり、お互い^{たが}につながっています。生きものたちの命を守っていくというのは、実はそうした「見えない命」や「命のつながり」も守っていくということでもあります。^⑨見えづらだけで、大切にしているものは、間違^{ちが}いなくそこにはあるのです。

Ⅱ 生物多様性は、たくさん種類の生きものがあるという種の多様性だけではありません。

少し細かく見てみると、多くの生きものでは、同じ種の中にも地域、たとえば海を隔てた別の島とか、山を隔てた川同士の間などで、様々な違いがあります。また、同じ地域の集まりの中でさえ、遺伝子レベルで全く同じ個体はほとんどいません。目には見えなくても違いがあるのです。こうした個性の違いを「遺伝的多様性」と言います。

また反対に少し広い視野で眺めてみると、日本だけでなく、世界には暑いところや寒いところ、雨が多いところ少ないところ、森や山、海など、様々な気候や環境があり、そこにすむ生きものたちはその中で環境や他の生きものと関わり合いながら生きています。こうしたつながりを持ったまとまりを「生態系」と言います。

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とそのつながりのことを指します。種数だけでなく、遺伝子レベルの個性の違いや、いろいろな生きものと環境が織りなす「生態系の多様性」も含めた言葉なのです。^(注9) 第4章で紹介した阿蘇の野焼きはまさにこの「生態系の多様性」を保つための活動です。

こうした生物多様性から、私たちは様々な恵みを受けて暮らしています。経済活動だけで見ても、世界中で毎年生み出される「富」の半分以上が、生物多様性に依存しているという報告があります。ちょっと考えてみても、魚を捕ったり木を切ったり、それを加工して製品を作ったりすることや、生きものたちがつくり上げた豊かな土壌を利用したり、昆虫などに作物の受粉を手伝ってもらったりする農業や、そこから始まる食料システムが思い浮かびます。^(注11) 病気を治療してくれる薬も多くの成分が生きものから見つかっています。^⑦ 生物多様性が失われると、多くの人のなりわいが成り立たなくなり、

(朝日新聞取材チーム『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか?——命と向きあう現場から』)

(注1) 特定外来生物…生態系をこわしたり、他の生物を脅かすという理由で、輸入や飼育が禁じられている生物。

(注2) 大学院…大学を卒業した人が、さらに深く学ぶための教育機関。

(注3) ゲンゴロウ…池や沼を泳ぎ回る昆虫。

(注4) 侵略的外来種…もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物。自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれがある。

(注5) 繁殖…生物が生まれて増えること。「増殖」は、「増えること」。

(注6) 根絶…完全になくすこと。

(注7) 第2章のナガエツルノゲイトウの話…もともと南米に生えていたナガエツルノゲイトウが、日本でも急速に繁殖し、駆除の対象となった、とある。

(注8) 遺伝子…生物の性質を決める働きをするもの。

(注9) 第4章で紹介した阿蘇^{あそ}の野焼き…草原^{そうげん}の状態を維持^{いじ}することを目的として、野を焼き払^はうこと。阿蘇地域では、毎年三月ごろに行われる。

(注10) 土壌…作物を育てる土。

(注11) システム…しくみ。

問一

~~~~~線①「地味」・②「とらわれて」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

①「地味」

- ア 時間がかかること  
イ 苦勞が多いこと  
ウ 人目を引かないこと  
エ とてもつまらないこと

②「とらわれて」

- ア 不安におそわれて  
イ 周囲と関わりを絶って  
ウ 価値を見いだして  
エ ある考えに縛<sup>しば</sup>られて

問二

1 . 2

に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 1 とほとほと 2 すたすたと

イ 1 いそいそと 2 しずしずと

ウ 1 ずんずんと 2 せかせかと

エ 1 のろのろと 2 ふらふらと

問三

A . B

に入ることばとして最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あるいは イ たとえば ウ そして エ でも オ しかも

問四

——線①「見つけちゃったらどうしよう」に見られる筆者の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア オオヒキガエルの命も他の生物と同じくらい尊いと思っているので、見つけたときにこっそり逃がす方法を考えている。

イ オオヒキガエルという生き物が大好きだが、見つければ殺さなくてはならないので、かわいそうで気がとがめている。

ウ 駆除に成功したと思っていたオオヒキガエルを発見したら、駆除に向けた努力が無駄になってしまうので心配している。

エ もしオオヒキガエルを発見したら、こっそり持って帰りたいという欲望に負けてしまうかもしれないとおそれている。

問五

——線②「駆除しないといけない」とありますが、なぜ駆除しなければならないのですか。その理由を示す部分を、これより前の本文中から三十五字以上四十文字以内で探し、「……から。」に続くように、初めと終わりの五字ずつで答えなさい。

問六

——線③『モヤモヤする』なんて言ったら、生きものに关わる人間として失格なんじゃないか」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1)「モヤモヤする」の説明として最も適当なものを次の中から選り、記号で答えなさい。

- ア しかたがないことだが、自分の気持ちを分かってもらえないのがさびしい。
- イ 正しいことだと分かっているが、友人や先輩たちに不信感をもってしまう。
- ウ 頭では分かっているが、大好きな生きものを殺すことにためらいを感じる。
- エ 言いたいことはたくさんあるのに、うまくことばにできないことがもどかしい。

(2)「生きものに关わる人間として失格なんじゃないか」と考える理由として最も適当なものを次の中から選り、記号で答えなさい。

- ア 生きものの全体のことを考えず、個人的な感情にとらわれているから。
- イ 生きものの全体に対する基本的な知識が、あまりに不足しているから。
- ウ 友人や先輩に遠慮して、生きものの全体に関する意見を述べないから。
- エ 生きものの全体を支配するのは人間である、という自覚が足りないから。

問七

——線④「事実」の内容を、本文中のことばを利用して、「……という事実。」に続くように、二十五字以内で答えなさい。

——線⑤「後ろ向きな気持ち」とありますが、どのような気持ちでしょうか。本文中から四十五字以内で探し、始めと終わりの五字ずつをそれぞれ抜き出して答えなさい。

——線⑥「見えづらいたけで、大切にしているものは、間違いなくそこにはあるのです」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 数が少なく見つけにくい生きものこそ、大切に保護してその命を守る必要があるのだ。

イ ひとつの命は単独で成り立つことはなく、他の命との複雑な関わりの上に成り立っているのだ。

ウ 私たちの生活は、命を奪うことで成り立っているということを忘れてはならないのだ。

エ この世界にある命はすべてが同じ重みを持っていて、分けへだてなく守られるべきなのだ。

——線⑦「生物多様性が失われると、多くの人のなりわいが成り立たなくなりますが」という主張に見られる、筆者の生物多様性に対する考え方を、「生物多様性は、〃ということ。」の形になるように、二十字以内で答えなさい。ただし、「人間の生活」ということを必ず使うこと。